

令和元年度 大台町地方創生会議 会議録

日時 R1.6.5 16:30-18:20

場所 大台町役場 2F 会議室

1. 出席者

- 委員 西村座長、高橋委員、遠藤委員、松田委員、野田委員、呉山委員（代理）、井上委員、森本副町長
- 説明職員 檜井産業課長、尾田森林課長、西瀬森林課主幹
- 事務局 千原企画課長、岡本

2. 会議の進行

- H30 年度までに実施をした事業について、産業課及び森林課から説明を行い、続いて委員から意見、座長から講評を頂いた。

3. 委員による評価検証

高橋委員

確かに説明を頂いたそれぞれの事業は、各目標や方向性に対して、それぞれに沿った形で実施されてきたと思いますが、実際に取り組んでいる方々同士の交流や、我々産業界との関りなど、動きが見えてない状態だと思います。

事業と事業の間での横ぐしというか、それぞれの方々の取組の相乗効果がでていない。それを取り纏める例えば町の総合商社的な部分があって、そこから対外的にPRしていくというところが必要ではないのかなという印象を受けました。

西村座長

（説明を聞いて）森林課さんの方は能動的に動かしているのが見えてきた。商品を作って戦略的にもイベントを絡めながら広葉樹という形で切り口をとりながら能動的に動かしている方向性の軸が見えました。

産業課さんの方はなんとなく各項目があります。何をやったのかやらないのかもわからない中で、最初の2年間はお金があったから動かしたもののその後は何もませんでした。だから数字があがりませんでしたとしか聞こえなかった。きつい言い方します。でも本当はそうではなくて、やっていることがうまく伝わっていないことも中にはあるのではないかと思います。

遠藤委員

柚子を作ったり、えごまを作ったりつぶら米もどれも知っている人がやったりして交流はあるので話は聞いたりすると、それぞれに盛り上がっているのかなとは思いますが、高橋委員が言われたように、自分も含めて、相乗効果はあまりないと感じます。

少なくともそれぞれ今やっていることが収束していかないようにとは思いますが。補助金をもらって何かをする場合、最初はいいんだけどしりすぼみになることはよくあることだと思いますので、そうならないようにしてほしいと思います。

自分のところは個人経営なので、だめでもなんとかしないといけないところはありませんが、補助金など公の資金がつかぎ込まれている場合は、その中でやっているというのが、私からみると、なんだかなと思うところがあります。

西村座長

明確に立ち上げて自立させていくんだという強い意志、厳しさが感じられない。

みんな自分の力で生きて自分で稼いでいるんですね、だったら最後まで自分の力でやっていくんだということを見せつけながらそういう事業をやっていくところが足りない。何か補助金を用意しますということだけで、魂をいれていないんですね。人が絡むんだったらそういうことをやらなければいけない。だからこそ行政に人がいるんです。もしそこに補助金のリストがあって説明書しかないなら行政はいらなくなる。

なぜ行政が存在しながらそういう施策を打っていくのかということ、住民に明確に説明しなければならない。作るどころから関わっているのもものすごくショックを受けています。そんなレベルで大台町はおちていくのか、そうではないと思っています。

遠藤委員はこの4年間で成長されていると感じますがいかがですか。

遠藤委員

この会議が始まったときがどん底でしたので、上がってきてはいますし、利益を追求していますのでこれからも伸ばしたいと思っています。

会議を通じて、三セクとか町の事業は、利益を追求しなくてもいいのか疑問に思いますし、利益を追求しなくてよいのであれば、その代替りの効果が必要なのではと感じています。農業部門だけに限ってみると、いいところもあるけれども、「けれども」というのが感想です。

西村座長

4年間で少なくとも関わっているみなさんはこの取組と関係ないところで成長していると思います。何が言いたいかというと、つまり社会は動いている。その時に施策を立てて動か

す行政は、どういう立ち位置で関わるのかというところが重要なんです。

行政のために税金があって仕事をしているんじゃないんですよ。住民のみなさんがいきいきと生きるために行政がかかわって皆さんから預かったお金を使うんです。本当にそういう姿勢でやっていますか。

この項目があるからここでやらなければならない、そういう話ではないんです。行政のための仕事の話ではない。だから、どんな効果がでたのか、どういう変化を生んだのか、いうことを聞きたかったんです。

単に羅列して、人が来なくてできませんでした。やりましたが効果はありませんでした。ということであれば行政は必要ないですよ。

松田委員

役場によくあることですが、実績の数値（K P I）を見るとやはり、物を作っておしまいと感じました。売る相手を考えてない、商売的にみてそこが浅い。買ってくれる人をしっかりと明確にターゲットを決めた方がいいのかなと思ったのが一つ。

施策1 2 3 4 5とあって、本当はK P Iを達成するためのプロセスのひとつひとつのピースのはずなんだろうと思うんですが、てんでバラバラに動いているような気がします。

これだけあればなにかしら一つくらいは意外に素晴らしい数字が出てきたりするんですが、やっていく中での強みもそれほど見えてこないそんな印象です。

野田委員

おそらく（効果検証の資料に）実際名前が載っているのはうちの会社だけだと思います。実感としてあるところも多少ありますが、産業課はこういう風に思っているんだなと思いました。

まず、観光全体のこの5年間の様子については、個人的な感想も含めてになりますが、先ほど西村先生が、観光はラッキーも重なってと言われましたが、実は17年前に農林業型体験民泊として、みくりさんと川原さんが三重県で初めて開業しています。

それがこの5年間で、なぜかこの資料には2軒となっていますが、Teafieldvilla、宿屋まで、ロッジ宮川、モルダリングを趣味にしているご夫婦が開業したごろりの4軒が開業しました。これって特筆すべきことではないかと思っています。実は、こそっともう一軒開業したいともっています。

これらの事業所は、自分たちでP Rができる、情報発信力をもっている、販路を見つけようとする能動的な動きができるスタイルが特徴です。自分は観光協会にもいましたが、能動的な事業所が生まれたということは、これまでとの大きな違いだと思います。すごく未来が明るい題材じゃないかと思っています。

ただマリOTTに関しては、フォレストピアと相関関係にあると思っていて、フォレストピ

アと一緒にできないことはマリOTTにもできないと思っています。フォレストピアに来るお客さんに向けて付加価値のついたサービスを提供していくことができなければマリOTTにもできないだろうと。実は観光はこの1年が勝負ではないかと思っています。

あとはDMOがワードとしてたくさん出てきますが、何をもって効果があるかないのかと疑問があります。一方で、公共支援を中断してというところについては、私自身は2年間、DMOとVerdeと観光協会と産業課さんとのやり取りの中で、求められていることは結局パブリックに近いところだったというのがありました。観光案内所の役割や公的な立場での情報発信などがそうです。そういったことは、DMOでなくても観光協会できると思うので、この見直しというのは賛成です。町の方向性としてパブリックを重要視するところの方針を転換したのなら、このような発想でいいのかなと思います。

Verdeは、民の事業所として、町内で足りないプレーヤーとして頑張っていく。観光協会は、産業課が公の部分を商工会と一緒にしっかりやっていく。というように、役割分担がしっかりあればいいと思います。その中で、横ぐしの役割を自分が出来ればなと思っています。町とは、事業でしっかり連携をしていきたいなと思っています。

アウトドアフェスティバルですが、トレランについては、私自身が企画しているのでマイナス要素が見えなくなっているところもあると思いますが、トレラン層を誘客できなかったという意味では失敗だと思っています。

ただ、これまで横で繋がっていなかった体験事業所、自然学校とかキャンプ場とか、新選組ですとかあるいはフォレストピアというような事業所が、横ぐしになって繋がってイベントができたというのは、すごく体験が充実した大台町という意味では、とっても効果のあることだと私自身は思っています。

西村座長

先日Verdeの山本さんにもお話を頂く機会がありましたが、非常にクリアに話をしてもらえました。そういう説明が聞きたかったんです。

民が考えて民が実行していることも捉えながら、まちひとしごと創生総合戦略とどうリンクしているのかを含めてしっかりと行政として見て頂きたい。

野田委員がやっているDMOはものすごくしんどいところから初めて、SUPに関しても3倍から4倍増まで伸ばしてますよね。その努力というのはやっぱり高橋委員や遠藤委員もおっしゃってみえたように、自分たちのこととして考える中で、民として自立できることとして動いている。

だとすると分業できちんとやってこうということも含めて、民がどうこの期間に動いてき

たのか、社会はどう変わってきているのかを捉えて、行政が出している戦略をこれからどう展開するかを総括してやっていくことが重要で、お金の問題ではない。

人がどう動くかを考えて民の人たちをサポートするのが、行政がやれることであって、本当は計画期間終了までの方針のところにとしっかりとそういうことを書いてほしい。できなかつたことを聞いても無駄ですので能動的にやったことを聞きたかったと思います。

呉山委員（代理）

代理出席の一社員ですが、生まれも育ちも大台町という立場で個人的なお話をさせて頂きたいと思います。仕事と子育ての両立ができる職場環境など、子育て支援についても書かれています。こういうことは、実際は雇う側の話だと思います。今一番町に対して不満に思っていることは、全く個人的な話ですが、保育料についてです。3人目は無料と聞いていましたが、実際は4月から9000円、9月から13000円でした。大紀町はというと1人目からタダなんです。町長は、汽車通学の定期代を半額にすると掲げていたと思いますが、そういうところをもっと求めたいと思います。

（呉山委員）

まずこの地方創生会議の当社としての活動意義として、町の衰退はそのままその地域で活動している会社の継続にも大きく影響することから、大台町をアピールして広めていくことが大台町に存在する会社として今後の会社存続につながるものと考えています。

実際、この会議から企画した『和下駄 WAGETA』という商品には三重県大台町の大台杉を使用し、この地域で製作された商品であることを、カタログ・パンフレットにして商品とセットで現在も販売するようにしています。

また、昨年今年と2年連続でクラウドファンディングを実施し、様々なイベントにも積極的に参加していく過程で少しずつ知名度が上がったことで、昨年夏（2018.7.19）にNHKの“おはよう日本まちかど情報室”で全国放送されましたし、他県のローカル番組（熊本放送）でもこの企画を取り上げて頂き放送して頂くことになりました。他に雑誌掲載や一般の方々からのお問い合わせ・応援メッセージを頂いたことも多くあり、確実に大台町の一つの活動として知名度アップにも寄与していると考えています。

この活動をしていくことは当然多くの労力費用がかかりますし、根気のいる作業が必要となります。ただし、会社としてはこの活動の意義が決して無駄であるとは考えておらず、現在も販売先各業者の継続した商品取り扱いが続いておりますし、当社として今後も力を入れていくことで夏場が近づくと一つの定番品としてこの和下駄が定着するよう一人でも多くの人にこの和下駄を履いてもらい、これに合わせて大台町についても多くの人に知って

頂ければと活動しています。

西村座長

去年一昨年と町の事業者さんを育てるということが大台町でやっています。その中にも子育てをしている方、フォレストピアの管理や昴のコーディネーターの方とがいましたが、それぞれが町の中でしっかりと生きていたと感じました。事業担当課からの先ほどの説明を聞くと、本来は、行政が横に繋がる場を創って盛り上げるべきところが逆に足かせになっているのではないのかと思います。

井上委員

自分が小学生のころの教科書の話ですが、未来の絵が描かれていて、当時はこんな風に経済が発展していくというイメージがあった。それに向かって大人も子供も夢を持っていたと思います。今はどうかというと、その頃とは違うなと思いますが、この会議に初めて参加させていただいた時に、西村先生が20年後の大台町がどうなっていたかというお話を頂いたと記憶しています。

民の方々もその将来のイメージを共有して進んでいければ、その過程でこういういいところは残せることができるのか、自分はこういうことが実際できるのかということが、それぞれに出てくるのではないかと思います。それが今回の報告の中には結局ないのかなと思います

一年経って、研ぎ澄まされた何かを作っていくというところが見えてこなかったですし、何売りにしていくのかということもないように思います。我々も巻き込んでもらえばいいんですが、みんながそこへ向かっていけるような筋の通った何かがあるとよいのではと思います。

西村座長

高度成長期に描く将来の画は、目指すものが「モノ」だったと思う。今は、大台町にある独自のものをどう生かしていくか、この地域を生かし切っていくことが大切になっている。町はどういう方向に行きたいのかということを示さないといけない。

大台町で言えば自然、例えばその中で一番きれいな水を使いながら生き抜いていく。日本中それぞれの地域でやっていけばいい。他と競い合う必要はないんです。

昴学園もこの魅力を活かした活動をすればよくて、津高校と競争する必要は何もないんだと思います。そういう意味で、それぞれの地域で生きる人がその地域の魅力を生かしながらそれぞれの役割を果たすことができればいい。

大台町は世界が認めるエコパークに認定されているんです。エコパーク×農業、エコパーク×DMO と考えると、世界で勝てる。この自然の中で教育ができるとなると昴学園も劇的に

変わっていく。世界に通じるユネスコスクールということになれば、彼らは自信をもって育っていくことができるようになる。大台町は、こういうことができるすごくよい環境にあると思います。

副町長

大紀町との比較ですが、他の市町と比較しても大台町の保育料は格段に低いはずですし、大学入学や通学支援もやっていきますので、この点については誤解のないようにお願いします。

DMOについては、産業課ともう少し話めたいと思いますし、呉山委員の話については、公務員として直接話を頂くことで初めて分かることですので、ありがたいと思っています。

西村先生は、人づくりのためにあえて厳しいこともおっしゃって頂いているとも思いますが、インバウンドの関係も動きがありますし、いろいろと連携しながらやっていきたいと思っています。

コスト意識を持って民のサポートをしっかりとしながら、ユネスコエコパークでも自然との共生を掲げていますので、突っ込んでやっていきたいと思っています。

高橋委員の言われたことに関連してですが、大台町は一般の方との懇親の場が少ないなというのが気になっているのと、女性の視点での施策がこれまでないのでそういうところもやっていきたいと思っています。

西村座長

私も、いろいろな自治体と関わらせて頂いているうちに、いつの間にか国の委員にもはいつて内閣府でも意見を言わせていただくようにもなりました。三重の大台町はすごいですよ、自分たちでしっかりと戦略を立てていますよ、そういうところは今度リバイスするときには、大きな差ができてきますよと発言している。国が引っ張れる統一的な施策はないが、そういう能動的に取り組んでいる自治体をしっかりとサポートしようとする姿勢は国も持っています。実際に大台町にはそれだけの力があると思っています。